うつのみやこども賞だより

平成１９年度　第８回

市内５・６年生の選定委員さんたちが，月に４冊の本を読んで，年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

「ゴールライン」

秋木真／作（岩崎書店）

～読んだ本の感想より～

●最初は仲が悪かった哲也と和希だったけど，たがいに本気で走ることで本当の仲間になれたのがとてもよかった。
●かずきが陸上部にはいってからいろいろな出来ごとがあっておもしろかった。
●「ただ走る。それに意味を求めちゃいけないんだ。」というところが心に残りました。
●100 メートル走が 12 秒 96 なんてものすごく速いと思う。和希の陸上はいつまで続くのか!?
●和希と裕紀の最後に競争するところは，青春だな！と感じました。
●和希たちが走る時のえい像や，和希の心の変化がよくわかる物語でした。
●私自身あまり陸上は好きではなかったけど，読んでみるとはまってしまいました。

「Ｒａｎｍａｒｕ」（らんまる）
伊丹由宇／作　（岩崎書店）

●緑竜族の首領の蘭丸が爽快学園にかよいながら，木星丸のもとで修行をつみ，成長していくところが良かったです。
●蘭丸と闇太郎がたたかっているシーンは目がはなせませんでした。
●とってもドキドキする話でした。
●大切な人や物を必死に守る姿に感動した。
●らんまるが強いのになぜか食べ物のことに興味がある，ギャップがおもしろかった。
●物語にスピード感があって面白かったです。

「鬼の市」
鳥野美知子／作　（岩崎書店）

●最初はこわいのかなと思ったけど，読みはじめるとすごくおもしろかった。
●この本には方言などが入っていて読みにくかったけど，鬼迎えをするのがおもしろかった。
●鬼が家に来てお酒を飲んだりそんなことがあるんだとびっくりしました。
●いちどいってみたい。
●青鬼からにげるところがどきどきしました。

「うわさのミニ巫女」
柴野理奈子／作　（講談社）

●主人公が地味で目立たない女の子という設定がユニークでした。
●最初に結実が麻由美にまちがわれていて神社のモデルになってしまったのがおもしろかったし，最後に本当の神社の仕事をしたのでおもしろかったです。
●３人の夢を追いかける姿が印象に残りました。
●てきとうに書いたおみくじが本当に当たってしまってすごいと思った。
●結実はこれからもずっと，神社のお仕事をがんばってもらいたいです。
●結実が弱気な性格から明るく変わってよかったなと思いました。

うつのみやしとしょかん
Utsunomiya city library